

新たな100年へ

池井戸貞夫会長年度テーマ



超我の奉仕

国際ロータリー会長

カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

Weekly Report

E-mail seinan1@fancy.ocn.ne.jp http://rc.nagoya-seinan.org/

第516回例会No. 22平成17年12月22日(木) 雪

「年納め例会」

- ローターソング 「我等の生業」
- 出席報告 会員49名中32名出席
- 出席率 68.09% 出席計算人数47名
- 修正出席率 12月8日 95.74%
- スピーカー 長江正博さん

会長挨拶

今年最後の例会となりました。皆さんに支えられて今日の日を迎えることが出来ました。

「特効薬がない」といわれている我が国の少子化問題です。それに対して初の専任大臣が誕生しました。2005年10月31日第3次小泉改造内閣が発足し、「少子化担当大臣」となったのが、猪口邦子さんです。猪口さんは3代目の少子化担当大臣です。初代は小野清子さん、2代目が南野知恵子さんです。今回の猪口さんはご存じのとおり、働きながら家庭人として、双子を育ててきた事で白羽の矢が立ったと言われています。裏を返せば、それだけ少子化問題が逼迫していることだと言えます。人口の減少は年金を始とする社会保障制度や経済活動など社会の根幹を揺るがす大変な問題であるからです。

「平成16年度少子化社会白書」を見ても分かりますが、約8割の人が低い出生率に危機感をいだいていることがわかります。少子化となる要因はいろいろありますが、晩婚化と未婚化、住環境の問題、長時間労働や通勤の影響、男性の育児参加や低給与のパート労働者の増加など、「生みにくく育てにくい」環境が指摘されています。

今年の「厚生労働白書」では、女性の働く割合が高く、男性の長時間労働の割合が低いほど、出生率も高くなると分析されています。

「女性の再就職の可能性を広げることが子育てをしやすい環境作りになる」ともいわれています。

これからは少子化ストップを後押しするような世論形成が必要だと感じています。

来年も、楽しく参加してよかったと言われるような例会を計画して行きますので、どうかよろしくお願いします。

以上

ニコBOX

●今年最後の例会です。本年中は大変お世話になりました。来年も宜しくお願いします。良いお年をお迎え下さい。 渡邊、西垣、林、和田、吉田、服部、小野、川原、近藤、中川、磯部、日下（敬称略）

長江さん 本年中はお世話になり有難うございました。つたない話ですが、宜しくお願いします。

森さん 長江さん、今日の卓話楽しみにしています。

●本日の卓話 長江正博さん、よろしくお願いします。 鈴原幹事、水野、藤野（敬称略）

坂野さん

= 年の暮 雪道ふみしめ ローター =

津田さん

= ローター 行く年来る年 友増して =

本日合計 38,000円

幹事報告

1. 次回例会は新年1月12日です。お間違えないようお願い申し上げます。また、例会前に理事役員会がございますので、該当の方はご出席宜しくお願い致します。

新入会員卓話

長江正博



☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1月19日(木) 第518例会 「新年夜間例会」

卓話 虎ノ門戦略研究所 関 肇氏

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

歳末助け合い募金

例年通り、皆様にご協力いただいた歳末助け合い募金は、森孝子さんを通じて NHK に納めます。



ガバナー月信11月号より抜粋

■ロータリー財団月間によせて

「財団学友会」の現状と期待

財団学友委員会 委員長 藤田 守彦
2760 地区のロータリアンの皆様には「財団学友会」に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

11 月は「財団月間」という事で、改めて学友会について御紹介をさせて頂きたいと思います。

御承知の様にロータリー財団には次の 3 つのプログラムがあります。それは「教育的プログラム」「人道的補助金プログラム」「ポリオ・プラスプログラム」です。財団学友会活動は「教育的プログラム」の 1 つであり、余り目立ちませんが重要な任務を果たしております。学友会は、ロータリー財団奨学生（国際親善奨学生）として外国で学問を終了した学生と、これも教育的プログラムですが研究グループ交換（GSE）を終了したチームメンバー、ロータリー平和奨学生、大学教員の為のロータリー補助金受領者で構成されています。特に奨学生は選考合格が決まった時点で自動入会となり終身学友会員となります。2005 年 11 月現在、当地区には 347 名、日本には 8,350 名の財団学友が活躍しています。元国連難民高等弁務官の緒方貞子さん、作家の牧野高吉さん、指揮者の松尾葉子さん最近では宇宙飛行士になる角野直子さんも学友会の一員です。それでは私共、学友委員会の仕事を御紹介します。まず次の様な行事を主催します。7 月には奨学生の為の「ガイダンス」をします。この行事は奨学生に決定された諸君に対して今後どの様な方法で留学先を決定してゆくのか、またロータリークラブの概要、考え方などを指導します。2 月には奨学生の為の「オリエンテーション」を行ないます。この行事は、ほぼ決まった留学先への最終確認の仕方、現地での注意事項などを指導します。6 月には財団学友会「総会」をかねて留学先の決まった奨学生への「壮行会」を行ないます。また、各行事の間には奨学生からの個別の相談にも応じています。

これらの行事はすべて、学友委員会と学友会代表幹

事、幹事、会員が一緒になり行います。その他ロータリー財団学友の正確で最新の情報を維持する為の資料も作成管理しています。この資料は地区や各ロータリークラブの活動に学友の参加を推進する為の基盤となります。また、メーリングリストを作成し、新しい奨学生の登録を行い先輩学友への質問、回答など留学までのアドバイスなどがメールで交換出来るにしています。

次に学友への期待ですが、学友の場合それぞれの分野にて専門知識を習得した人が大半であり、この専門知識を国際ロータリー、ロータリー財団への支援の為に役立てて欲しいのです。また、帰国後 2 年から 3 年は地区内各クラブの例会に出席して卓話をしたり、ガイダンス、オリエンテーション、総会に積極的に参加をして、次に出発する奨学生に対して適切なアドバイスをする事。それが援助してくれたロータリーへの貢献になりますし、その事をスポンサークラブからも助言して頂きたいと思えます。

この様に学友会活動に積極的に参加をして地区財団学友委員会と共に学友会組織の充実と活性化に努力をして貰えば更に良き循環となると考えます。

最後に課題として、財団学友委員会と学友会幹事の皆さんとの関係があります。年度によって学友委員会のメンバーは変わりますが、学友会幹事の皆さんはある時期まで永く役をされます。その中で意思伝達が巧いけば、縦、横の繋がりとして学友会活動は活性化される事となります。

簡単な様で難しい事ですが、地道な活動が実を結ぶ事と思います。さりとて、これも 2760 地区のロータリアンの力なしで実現出来ません。財団学友委員会も「誠心誠意」活動致しますので更なる御支援を御願い申し上げます。

『友』インターネット速報 2005 年 12 月 13 日 No.214



パキスタンの地震被害者に 500 万ドルの支援

地元の、そして世界中のロータリークラブと地区が、10 月 8 日にパキスタンで発生した大地震の被害者に、500 万米ドルを超える緊急支援をしました。「3,000 人以上の地元ロータリアンとローターアクターが、カシミールや北西地方で、被害者の窮状に対し、すばやく援助の手を差し伸べた」と第 3270 地区（パキスタン）ガバナー、モハメッド・キッドウェイ氏は述べています。また、医療チームを含めて、世界各地から集まったロータリアンが、効果的な活動をしているものの、厳しい冬の中で住まいを奪われた 500 万人以上の被害者を救うには、さらに多くの支援が必要だと、氏は報告しています。現在、同地区は、ユニセフや世界保健機関とともに、復興に必要なプロジェクトをすでに企画しており、そのプランは、近々、ムシャラフ・パキスタン大統領から発表される予定です。ウィリアム・ボイド R1 会長エレクトも、現地を視察し、多大な被害を目の当たりにして、さらなる支援を呼びかけています。